

全国救急隊員シンポジウムが岡山市で開催

救急企画室

1. 救急隊員シンポジウムとは

「第21回全国救急隊員シンポジウム」が、財団法人救急振興財団と岡山市消防局との共催により、1月24日(木)と25日(金)の2日間にわたって、岡山市(岡山シンフォニーホール・岡山コンベンションセンター)で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、全国の救急隊員や消防職員、都道府県や消防学校の職員、その他関連する医療従事者等、救急業務に関係する者を対象に、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的として開催されています。本シンポジウムは、救急救命士制度発足間もない平成4年度より毎年1回、救急振興財団と主催地の消防本部とで共同開催されており、今年で21回を数えました。

2. 今回のシンポジウムの内容について

岡山市での開催となった今回のシンポジウムは、「NEXT STAGE ～救命の未来を岡山から～」というテーマを掲げ開催されました。

平成23年3月11日に発生しました東日本大震災の教訓を今後活かすために設定された「東日本大震災の経験から」や「原子力災害時における救急活動とその後の対応」には、特に多くの救急隊員の関心が集まっていました。



東日本大震災の経験から

市民公開講座では、JRC（日本版）蘇生ガイドラインの作成にご尽力された帝京大学の坂本哲也氏を講師に迎え、『救命の連鎖』～G2010における『心停止の予防』の重要性～と題し、小児における不慮の事故による心停止や成人における急性冠症候群や脳卒中などによる心停止の予防に関して、また、傷病者を病院前で心停止にさせないことが最重要と考えられている「救命の連鎖」のポイントについて講演が行われ、多数の方々がその講演に真剣に耳を傾けていました。

また、ライブセッションI「BLS」では、胸骨圧迫の質について講義があったあと、参加者が自分の行った胸骨圧迫を最新科学で解析し、フィードバックを受ける



BLS

ことを体感していました。

救急業務を管理する立場の職員向けに開催された「救急業務管理講座」では、札幌市消防局、東京消防庁、北九州市消防局から、救急救命士という病院前救護の専門職を抱える消防機関の救急業務管理者が果たさなければならない責務について、各都市の実状の報告があり、会場は立ち見がでるほどの盛況ぶりでした。



救急業務管理講座

3. 地元関係者の熱心な取組

当シンポジウムは、岡山では滅多に降らない雪（2日目）にも関わらず、会場には6,000名以上（2日間延人数）が来場し、大変盛大なシンポジウムとなりました。

これは、主催者である岡山市消防局、地元医師会等関係各機関の皆様が一致協力してシンポジウム運営にあられたご尽力の賜物であるといえます。

今後もこのシンポジウムが救急業務の更なる充実と発展に資するものとなることを期待しています。

なお、次回の「第22回全国救急隊員シンポジウム」は、平成26年1月30日(木)及び31日(金)の2日間、福岡県北九州市において開催される予定です。

問い合わせ先

消防庁救急企画室 鮫島、渡部
TEL: 03-5253-7529